

B—61 水溶性色素生産カビによる繊維の汚染と その除去について(第1報)

東京家政大 家政 ○神野 節子
林崎 洋子
前島 寿子

1. 水溶性色素生産カビを用いて、その生産色素により、各種繊維がどのように汚染されるのか、汚染をおとす方法はないのか、これらを解明するために次の事項について実験した。

- ①カビの色素生産する至適条件。
- ②染色前、染色後の繊維のカビ生産色素による汚染。
- ③繊維の種類によるカビ汚染の違い。
- ④カビによる繊維の汚染を除く方法。

今回は主に①②③について報告する。

2. ①供試菌：羊毛汚染部位から無菌的に試料を切りとり、調製滅菌しておいたツァペック・ドックス液に投入し、25°Cで培養。出現カビを単離して純粋培養し、種の同定を行った *P. citrinum* 他 2, 3 種。

②供試繊維：羊毛ほか化学繊維を含む 10 数種類を選び精製。染色したものも調整した。

③カビ汚染試験：供試菌を液体培養し、培養 3 液に供試繊維を浸漬して汚染の様相を肉眼観察した。

3. ①培地の種類、pH などによりカビの生産色素に濃淡がみられた。

②無色の供試繊維はおおむね汚染され着色、有色繊維は色変をみた。